

委員長コメント  
(平成27(2015)年エイズ発生動向の概要について)

## 《平成27年 年間報告(確定値)》

### 【概要】

1. 今回の報告期間は平成26年12月29日～平成27年12月27日までの約1年
2. 新規HIV感染者報告数は1006件で過去8位
3. 新規AIDS患者報告数は428件で過去8位
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は1,434件で過去9位  
※これまでの最高は、平成25年(確定値)でHIV感染者は、1,106件、AIDS患者484件、合計1,590件。

### 【感染経路・年齢等の動向(確定値)】

1. 新規HIV感染者：
  - 同性間性的接触によるものが691件(全HIV感染者報告数の約69%)
  - 異性間性的接触によるものが196件(全HIV感染者報告数の約19%)
  - 静注薬物によるものは2件
  - 母子感染によるものは1件
  - 年齢別では、特に20～30代が多い。
2. 新規AIDS患者：
  - 同性間性的接触によるものが250件(全AIDS患者報告数の約58%)
  - 異性間性的接触によるものが95件(全AIDS患者報告数の約22%)
  - 静注薬物によるものは3件
  - 母子感染によるものは0件
  - 年齢別では、特に30歳以上が多い。なお、50歳以上が約27%を占めている。

### 【検査・相談件数の概況(平成27年1月～12月)】

1. 保健所等におけるHIV抗体検査件数(確定値)は128,241件で過去9位(過去最高は平成20年177,156件)
2. 保健所等における相談件数(確定値)は135,282件で過去17位(過去最高は平成20年230,091件)

## 《まとめ》

1. 新規HIV感染者報告数及び新規AIDS患者報告数は平成26年に引き続き減少した。女性の新規HIV感染者報告数は過去3年間、46件、50件、58件と数は少ないが増加傾向を示した。
2. 新規HIV感染者及び新規AIDS患者の感染経路としては、性的接触によるものが8割以上で、男性同性間性的接触によるものが多い。HIV感染症は予防が可能な感染症である。HIVに感染していない者においては、適切な予防策をとること、HIVに感染した者においては、まずは自分の感染を知ることが、今後の感染拡大を防ぐために重要となる。国民の皆様には、保健所の無料・匿名での相談や検査の機会を積極的に利用頂きたい。
3. 献血における10万件当たりの陽性者件数は昨年比で減少した。血液製剤によるHIV感染を防ぐため、HIV感染症が疑われる場合、国民の皆様には保健所等での無料・匿名検査を積極的に利用頂きたい。
4. 新規HIV感染者・AIDS患者報告数に占めるAIDS患者報告数の割合は、約3割のまま推移している。早期発見は個人においては早期治療、社会においては感染の拡大防止に結びつく。自治体におかれては、エイズ予防指針を踏まえ、引き続き利便性に配慮した検査相談体制を推進していただきたい。